

■和田維四郎 鉱物学者、技術官僚。日本における近代鉱物学の創始者で、晩年には科学的な書誌学も開拓した。

わだつなしろう
松下村塾・・・1856＝ 若狭国(福井県)小浜で、藩士の子に生まれる。

桜田門外変・1860＝ 4歳：

薩摩藩士密航1865＝ 9歳：

明治維新・・・1868＝12歳：

初の日刊新聞1870＝14歳： 藩からの貢進生として、上京し、大学南校に入る。

明治6年政変 1873＝17歳： 改称された開成学校ドイツ部鉱山学科で、シェンクに鉱物学を学ぶが、
佐賀の乱・・・1874＝18歳： 鉱山学科廃止されると、転科せずに、退学。その才能を惜しんだシェンクの推薦で、
初の民間工場1875＝19歳： *開成学校助教となり、来日したナウマンのために設置された金石取調所に勤務、
三つの内乱・1876＝20歳： 文部省から調査記録「金石試験記」が刊行される。
西南戦争・・・1877＝21歳： 東京大学創立後も工部大学校助教としてナウマンを助け、また日本全国の地質調査を指導。日本全国の鉱物・鉱石の近代的な調査のさきがけで、それを体系化し、「金石識別表」、
大久保暗殺・1878＝22歳： 内務省地理局に設置された地質課に、ナウマンとともに移動し、最初の全国的地質調査の地図作成事業を開始。「本邦金石略誌」「金石学」、
沖縄県編入・1879＝23歳： 「晶形学」を著す。また鉱物名の日本語訳にも努めた。
明治14年政変1881＝25歳：
新体詩抄・・・1882＝26歳： 自ら尽力してきた地質調査所が設立され、初代所長に就任。
岩倉具視没・1883＝27歳：
秩父事件・・・1884＝28歳： 渡独し、ベルリン大学のウェブスキー教授に鉱物学を学んで、
内閣発足・・・1885＝29歳： 帰国。東京大学教授を兼務、
帝国大学始・・・1886＝30歳： 地質調査所が農商務省地質局となり、その局長、

帝国憲法発布1889＝33歳： 農商務省鉱山局長も兼ね、
帝国議会始・1890＝34歳： 日本初の鉱業法制研究書「坑法論」を著す。地質局が再び地質調査所となり、所長、
大津事件・・・1891＝35歳： 東京大学教授を辞任。
大本教・・・1892＝36歳： 日本最初の近代的鉱業法典たる鉱業条例施行させるなど、鉱業行政を確立して、
郡司千島探検1893＝37歳： *地質調査所長と鉱山局長を辞任。
日清戦争始・1894＝37歳：

八幡製鉄始・1897＝40歳： 製鉄所長官となり、八幡の官営製鉄所建設に従事、

さらに標本の収集・分類に力を注ぎ、

田中正造直訴1901＝45歳： 八幡製鉄所を操業開始に導くと、
教科書疑獄・1902＝46歳： 退官し、以後、鉱物学の研究に専念、

日露戦争始・1904＝48歳： *その総合な成果となる「日本鉱物誌」を完成し、記載鉱物学の基礎を確立した。日本全国の完全・美しい鉱物標本を網羅しているほか、江戸時代の石の収集家木内石亭の「雲根志」関係のものも含む。
日露戦争終・1905＝49歳： 研究成果を海外に広めるため、欧文で日本最初の鉱物学雑誌{本邦鉱物資料}を発刊、
韓国反日暴動1907＝51歳： 「本邦鉱物標本」を出版。

晩年は雲村と号し、書家としても知られ、
韓国併合・・・1910＝54歳：
古書籍の散逸を恐れ、岩崎久弥と久原房之助のバックアップを得て、膨大な和漢の古文書の収集・研究、日本における科学的な書誌学の開拓者となり、{東洋文庫}{静嘉文庫}の中核を形成、

明治天皇没・1912＝56歳：
第一次大戦始1914＝58歳： {本邦鉱物資料}はこの年まで、5巻発行。
21ヶ条要求・1915＝59歳：
民本主義・・・1916＝60歳： 「嵯峨本考」、
ロシア革命・1917＝61歳： 貴族院議員。
本格政党内閣1918＝62歳： 書誌学における眼力を垣間見せる「訪書余録」を遺して、
ベルサイユ条約・1919＝63歳：
大暴落・・・1920＝64歳： 没した。